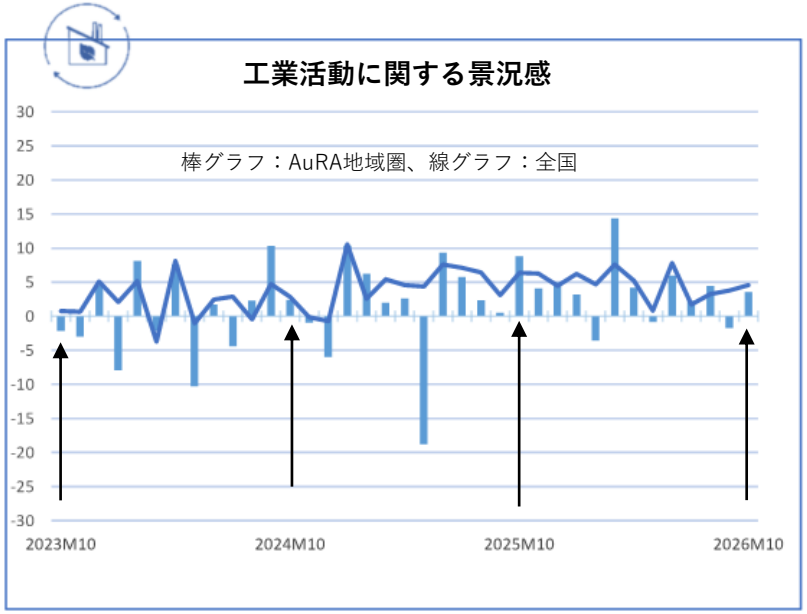
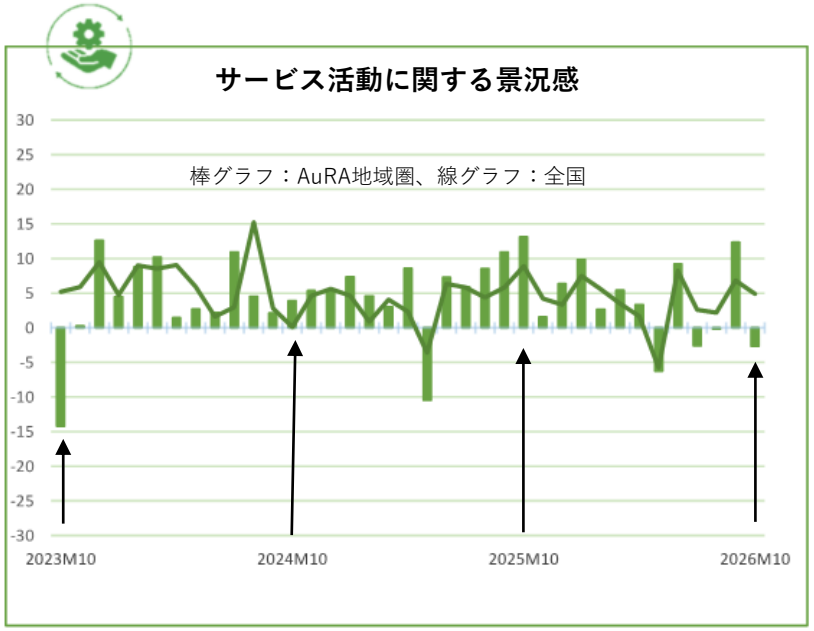
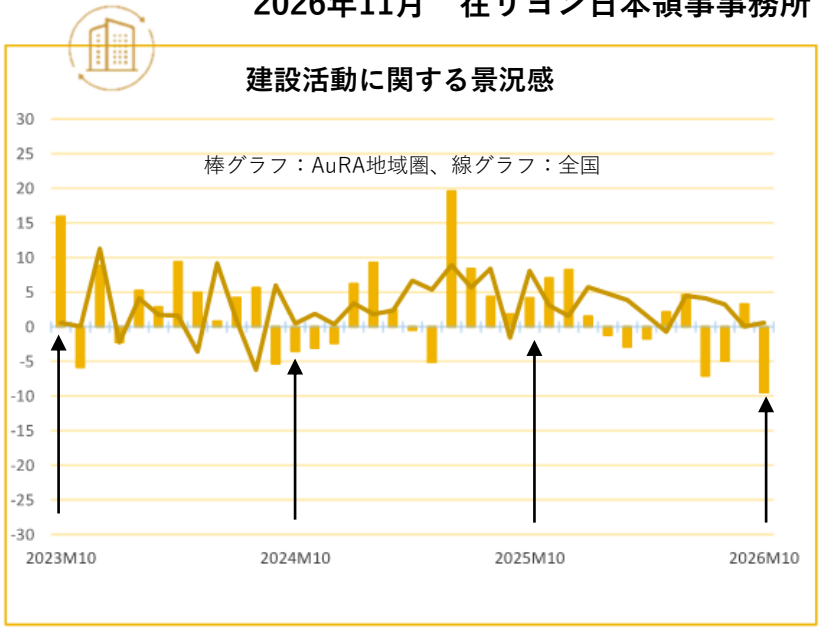
オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ地域圏における景況感調査（2026年10月）

2026年11月　在リヨン日本領事事務所





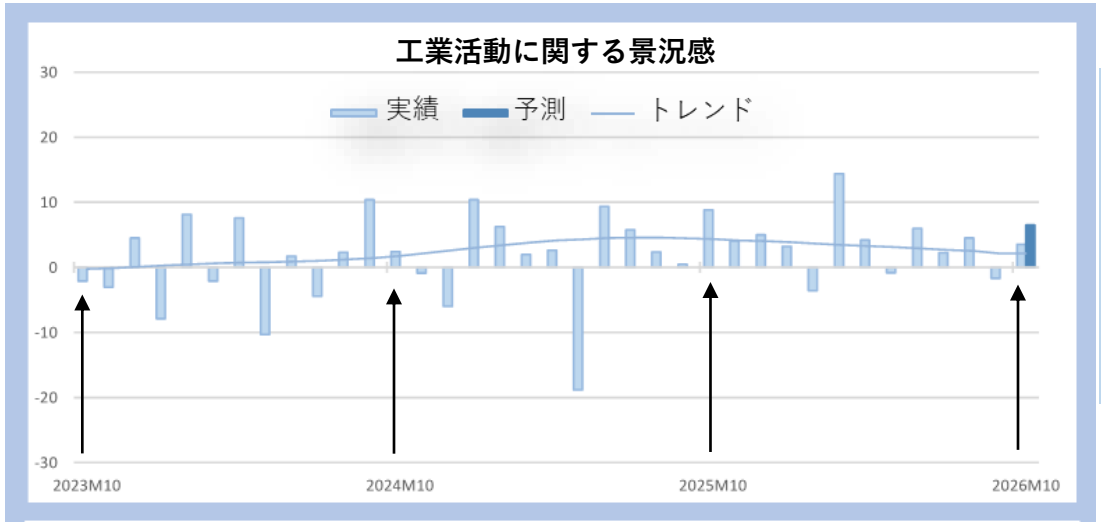


ポイント

- **工業部門**：AuRA地域圏の10月の景況感は小幅に改善した。これは主に成長が見込まれる市場（航空宇宙、防衛、データセンター）といった一部のセクターに牽引されている一方、他のセクターではわずかに悪化した。雇用は全体として横ばい。原材料価格は引き続き大幅に上昇。これらの価格上昇は販売価格に部分的にしか転嫁されていない。受注残高は妥当な水準ながらわずかに減少。完成品在庫はやや過剰となっているものの、経営者は今後事業活動は緩やかに拡大すると見込んでいる。
- **サービス部門**：主にエンジニアリング・技術調査、そして程度は低いものの外食産業など、一部のセクターの影響を受けてわずかに悪化した。サービス価格の引き上げペースは鈍化しており、利益率や資金繰りに悪影響を及ぼしている。経営者は、今後事業活動は緩やかに回復すると見込んでいる。
- **建設部門**：10月は内装工事の売上が大幅に減少したため、建設部門全体の景況感が悪化した一方、基礎工事は低水準を維持して推移している。見積価格はほとんど変動していない。雇用は概ね維持されている。受注残がやや少ないことから、業界関係者の短期的な見通しは控えめなものとなっている。

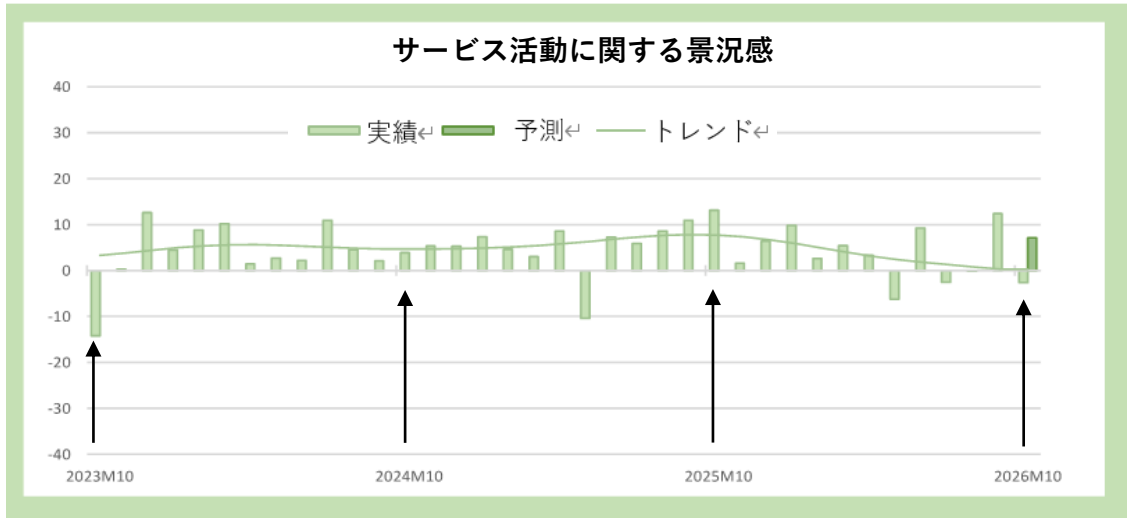
- フランス銀行がAuRA地域圏の工業、サービス業、建設・公共事業の各セクター1,150の企業と事業所を対象に、景況感について調査を実施（2026年10月28日～11月4日）。
- 景況感（le solde d'opinion）とは、企業経営者による肯定的意見と否定的意見の合計を、企業の従業員数で加重平均し、各部門の付加価値で調整したもので、企業経営者による７段階評価の回答を集計した指数であり、その値は-200から＋200の範囲となる。季節調整済み及び稼働日調整済みデータを使用。（出所：Banque de France, Tendances régionales : Auvergne-Rhône-Alpes ）

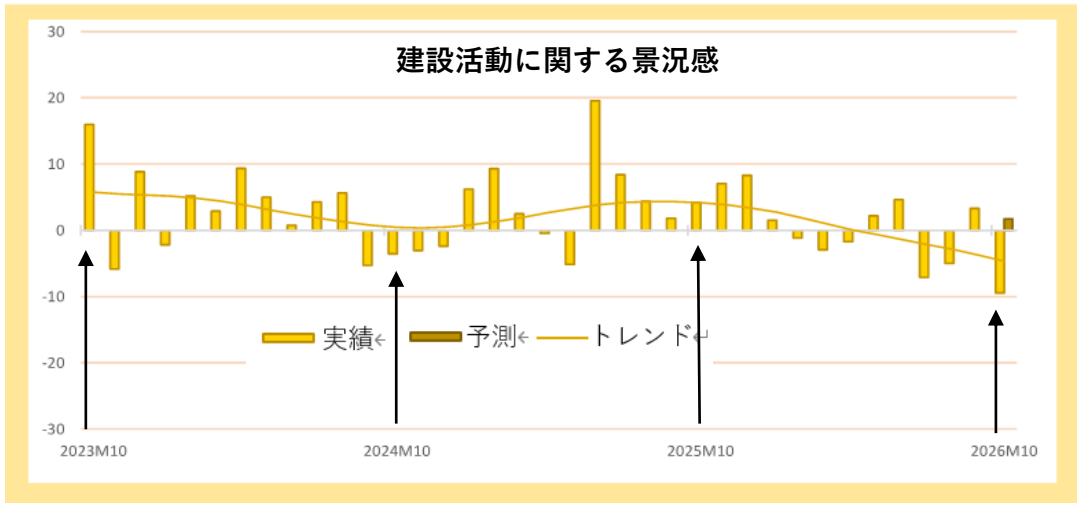
オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ地域圏における景況感調査（2026年10月）
：実績、翌月の予測、トレンド



AuRA地域圏の10月の工業活動はわずかに回復したが、セクター毎にばらつきが見られる。情報・電子・光学製品、電気機器、金属製品の製造では、航空宇宙、防衛、データセンターといった好調な需要先に支えられ、生産が大幅に増加。一方、ゴム・プラスチック製品、医薬品、食品、自動車及びその他の製造業では生産は縮小した。原材料価格は上昇傾向を維持しているが、販売価格に部分的にしか転嫁されていない。受注残高は減少しているものの、予想に近い水準を維持。生産は再びわずかに増加すると見込まれている。

サービス部門の景況感は主にエンジニアリング・技術調査、そして程度は低いものの外食産業など、一部のセクターの影響を受けてわずかに悪化した。サービス価格の引き上げペースは鈍化しており、利益率や資金繰りを圧迫している。経営者は今後事業活動が緩やかに回復すると見込んでいる。





建設部門の景況感は著しく悪化しており、内装工事の売上は明らかに落ち込んでいる一方、基礎工事は低水準で推移している。見積価格はほとんど変動なし。雇用は全体として維持されている。受注残がやや少ないことから、業界関係者の短期的な見通しは慎重。
土木工事では、公共需要の低迷の影響により、活動は３四半期連続で減少し、雇用は削減。競争が激化する中、見積価格は依然として下落傾向にある。今後も土木活動の低迷は続く見込み。